

第2回 大阪府立東淀川支援学校 学校運営協議会 議事録

○日 時 令和5年11月22日(水) 10:00~12:00

○場 所 本校図書室

内容・発言者	内 容
開会・北條教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度 第2回 大阪府立東淀川支援学校運営協議会の開会。 ・全体進行(教頭北條)の挨拶。 ・議事進行を鈴木会長が行うことの確認。 ・委員出席5名。過半数を満たし、会の成立確認。 ・傍聴者0名を確認。
委員紹介・芥川校長	<ul style="list-style-type: none"> ・校長挨拶。
資料説明・北條教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・次第、学校経営計画、学校教育自己診断について、令和6年度 使用教科用図書(選定・採択)一覧表。
議事・鈴木会長	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木会長あいさつ、議事進行。
学校経営計画進捗状況説明・芥川校長	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度学校経営計画の進捗状況について説明。 <ul style="list-style-type: none"> ・めざす学校像 ・中期的目標(3箇年の計画) ・本年度の取組内容及び自己評価(4つの項目) ・保護者による他学部の授業参観については、実施までにクリアすべき事項が多々あるので今年度は実施せず、実施へ向けて検討する。 ・全教員による他学部の授業見学は12月5日から実施する。 ・居住地校交流は盛んに実施しており、本校の特色の一つといえる。 ・地域の支援教育のセンター校として、地域支援や教員研修に本校教員を積極的に派遣している。 ・その他もあわせて、概ね順調に進んでいる。
議事・鈴木会長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の進捗状況などについて質疑応答。
質疑・島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停までの自力通学は保護者からとても喜ばれているが、通学バスに乗り遅れた場合はどう対応しているのか。
応答・芥川校長	<ul style="list-style-type: none"> ・通学バスに遅刻した場合は学校に連絡してもらい、個々の生徒の状況に応じた対応を行っている。
質疑・栢木谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停までの自力通学生徒にGPSをもたせているか。他校では生徒が一人でタクシーに乗った例があったようだ。
応答・芥川校長	<ul style="list-style-type: none"> ・本校ではGPSを持たせての登下校管理は行っていない。
補足・河井教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停までの自力通学については、バス停までの通学ルートや一定の練習期間等の計画を保護者が立案し、学校で関係教員がその計画をチェックする。そして実際の登下校時の練習の後に教員による見極めを行っており、この見極めをクリアできなければ認められないシステムになっている。
補足・林首席	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールを守れなかったり、定められたルートを通らなかったりした等の理由から、練習や見極めをやり直した事例もある。
質疑・古田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学は認められているか。

<p>応答・芥川校長</p> <p>質疑・島田委員</p> <p>応答・芥川校長</p> <p>質疑・鈴木会長</p> <p>応答・古田委員</p> <p>質疑・栢木谷委員</p> <p>応答・芥川校長</p> <p>補足・河井教頭</p> <p>議題総括・鈴木会長</p> <p>学校教育自己診断について・鈴木会長</p> <p>説明・北条教頭</p> <p>議事・鈴木会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通学の安全を鑑みて、本校では全ての学部で自転車通学を認めていない。自力通学は、公共交通機関を使用するか、徒歩での通学のみ認めている。 ・不登校の児童生徒へはどのように対応しているのか。 ・不登校の児童生徒へは、家庭訪問・オンライン等の様々な方法でつながるようにしている。また、関係機関と連携して、学校以外の行き場所もつくるようにしている。 ・通常学級と支援学校では不登校の様態は違うか。 ・異なると思われる。不登校はどの学校にとっても難しい課題で、様々な努力をしているが明確な答えは見えない。 ・子どもを車で送ってきているが、免許がなければ連れて来ることができなくて不登校になっていたかもしれない。実際にそういう家庭もあるのではないか。 ・通学させる力が厳しい保護者もおられる。そういう場合は、関係機関と連携して多面的な支援を行っている。 ・通学させる力が厳しい保護者は、行政とつながることもしんどいと感じるケースがあるように思われる。 ・不登校といっても各家庭によって様々な状況があるので一括りにはできないが、学校だけが抱え込むのではなく、外部機関と連携して多様な支援へ向けてのアプローチを行っていくことが重要である。 ・令和5年度 学校教育自己診断について、北条教頭より説明を行う。 ・令和5年度 学校教育自己診断について説明。 <ul style="list-style-type: none"> ・対象者と実施期間 ・今回の変更点 ・分析と結果公表 ・保護者には24項目の質問事項を設け、学校に対する意識をうかがう。 ・保護者には紙で実施し、生徒と教員にはグーグルフォームで実施する。 ・質問項目については、昨年度に大幅に変更したので今年度は一部変更してほぼそのまま使用する。 ・学校教育自己診断について質疑応答。 ・学校教育自己診断の結果は、2月の第3回学校運営協議会で報告される予定である。 ・特に質疑はなし。
<p>進行・北条教頭</p> <p>説明・藤本教務総務部長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・藤本教務総務部長より、令和6年度使用教科用図書（選定・採択）一覧表について説明を行う。 ・令和6年度使用教科用図書（選定・採択）一覧表について説明。 ・シラバスに基づいて教科用図書を選定した。 ・令和6年度の前に廃版になるものがあつた場合は、再度選定を行う。
<p>進行・北条教頭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議事の要旨につきましては公開となる。事前に各委員に内容の確認をさせていただきます。 ・次回第3回は2月16日を予定しているので、また出席をお願いしたい。 ・第3回は令和5年度及び令和6年度の学校経営計画へのご意見をいただく。学校教

	育診断票を児童生徒、保護者、教職員がほぼ共通した項目で評価したものを分析して学校自己評価を行う。
閉会・芥川校長	<ul style="list-style-type: none">・児童生徒にいかに学校に来てもらうかという課題をいただいた。外部機関とも連携して取り組んでいきたい。・閉会の挨拶。